第54回日本社会学会大会

第54回日本社会学会（会長・中野卓）大会は，昭和56年10月10日（土）と11日（日）の2日間にわたって東京三田の慶応義塾大学で開催された．10日から11日午前にかけて51の部会で165の一般研究報告が行われた．11日午後には4つのテーマ部会が開かれると同時に，特別部会として第3回アジア社会学会議の開会式・公開セッションが開かれた．

10日午後の人口部会では皆川勇一教授（千葉大学）の司会のもとに以下の4報告がなされた．

人口政策の展開とその展望……日本大学　黒田　俊夫

コウホート規模と婚姻……人口問題研究所　小島　宏

結婚様式とその変動……中村学園大学　山本　文夫

家族形成過程の日米比較
——コンポウネンツ・アナリシスによる計画外出生の分析——……人口問題研究所　阿藤　誠

また，10日午前の家族部会Ⅰにおいても次のような歴史人口学的研究の報告があった．

近世東北地方農民家族の世代的再生産と人口の構造
——「宗門人数改帳」をもちいた事例研究——……立命館大学　高木　正朗

なお，本年の人口部会には家族社会学者をはじめとする人口以外の専門家が多数来場したため，参加者が例年の数倍に達して活発な討論が行われた．（小島宏記）

日本老年社会科学会第23回大会

日本老年社会科学会（会長：那須宗一中央大学教授）の第23回大会（会長：黒田俊夫日本大学嘱託教授）が，昭和56年10月15日（木）～17日（土）の3日間にわたり，東京都千代田区平河町の全共連ビルにおいて開催された．今回の大会は，日本大学人口研究所が中心となって運営されたが，その努力によって盛大な大会日程を終了した．

同研究所顧問でもある黒田俊夫教授が大会会長をつとめられたが，第1日めの会員総会の後に，会長講演「高年化人口学」を行なった．その後に行なわれた本年度のシンポジウムは，「2001年における老年学と福祉」と題するもので（司会：黒田俊夫・中川晶輝），その報告としては，1．経済成長と社会保障——年金・雇用・定年（日大・小川直宏），2．日本型高齢化社会における生活設計と家族政策（那須宗一），3．心の問題への対応（日大・長島紀一），4．要介護老人のためのサービスの水準と費用（都老総研・前田大作）が行なわれ，これらの報告をめぐって活発な討論がくりひろげられた．

今回は東京での開催ということもあって，本研究所からも多数の会員が参加したが，そのうち，中野英子技官が「生活構造からみた女子の老後の生活観」（第1日），内野澄子技官が「老人の家族形態別にみた生活状況」（第2日）と題して，それぞれ一般報告の部会で研究発表を行なった．その他の報告のなかで人口に関連あるものとして，「江戸末期における農村老人の人口比と世帯構成」（お茶大・湯沢雍彦）があった．

なお，本年は日本老年医学会と隔年で共催する日本老年学会の第12回大会（会長：大島研三日本大学教授）も同時並行で開催されたが（会場は日本都市センター），そこでのシンポジウムとして，「寿命決定因子」および「高齢社会における老人のあり方——すこやかに老いるために——」の2題が行なわれた．（山口喜一記）

日本統計学会創立50周年記念国際円卓会議

日本統計学会は昭和56年に創立50周年を迎え，それを記念して特別講演会，記念討論会が7月13～15日関西大学における大会プログラムに組み入れられるなど，多彩な事業をとり行なった．それらの事業の一つとして，10

月14～16日の3日間，東京・渋谷の東武ホテルにおいて国際円卓会議（INTERNATIONAL ROUNDTABLE CONGRESS）が開催された．これは，記念事業企画実行委員会（委員長・西平重喜会員）が会員からの希望を基に決定した8つの部門ごとに，外国から招聘した著名な研究者を交えて会員が円卓会議を持ち，意見交換を行う目的で行なわれた．

8つの部門は次のとおり，幅広い分野にわたった．

Session 1 : Problems of Education and Research System of Statistics, Session 2 : International Comparison of Productivity, Session 3 : Statistical Models in Biology, Session 4 : Geometrical Statistics, Session 5 : Graphical Methods in Statistics, Session 6 : Health Statistics in Developed and Developing Countris-Current Status and Problems, Session 7 : Computational Statistics, Session 8 : North-South Problems from the Demographic Viewpoint.

これらのうち人口問題と特に関係の深い Session 6と8については，次のような参加者のもとに，それぞれ，活発な討議が行なわれ，有意義な会議を持った．

Session 6 : K. Uemura (Division of Health Statistics, WHO), Current Use of Vital and Health Statistics and Physical Growth Statistics in Public Health Activities, Problems in the Generation and Utilization of Such Statistical Information.

Session 8 : P. M. Hauser (Chicago Univ. U. S. A.), North Problems from the Demographic Viewpoint, G. Calot (Institut National d'Etudes Démographiques, France), French Population Policy and Africa, T. Kuroda (Nihon Univ.), North-South Population Problems and the Role of Japan, Y. Okazaki (Inst. Population Problems), Population Problems in Asia.

なお，この円卓会議のための予稿集（314ページ＋追加32ページ）が刊行されている．　（岡崎陽一記）

国際人口学会（IUSSP）マニラ大会

国際人口学会（Internationl Union for the Scientific Study of Population）総会が1981年12月9日から16日までフィリピンのマニラ市で開催された．今回のマニラ大会は，正式に登録した出席者約750名の参加があり，アジアで最初の大規模な人口学者の集いであった．会場は，マニラ市屈指の大通りであるロハス・ブルバードからマニラ湾に突き出たフィリピン政府の国際会議場で，その豪華さは過去の国際人口学会大会の歴史でも空前であったといえよう．大会のはじめにはフィリピン大統領フエルジナンド・マルコス大統領の臨席および演説があり，この大会のホストであるフィリピン側の大会にかけた熱意と意欲の程を窺わせた．

日本人の出席者は，現在国連機関に勤務している井上俊一・鹿野和子両氏を含み16人に上った．人口問題研究所からは，篠崎信男所長を始めとし，河野稠果，阿藤誠，広嶋清志，伊藤達也，高橋重郷，小島宏の各技官が出席し，ほかに黒田俊夫日大教授，小林和正京大教授，国立公衆衛生院の村松稔博士，加藤寿延亜細亜大教授，速見融慶大教授，市原亮平関西大教授，および谷勝英東北福祉大講師の諸先生も出席された．

会議は，開会式直後と閉会直前の2つの総会，半日ごとに3部会が同時進行の30の正式部会と，12の非公式（Informal）部会，2本の特別開催部会，そして大会中，大会前後を含め20本に上るサイド・ミーティングが行なわれるという，きわめて多種多彩なもので，その全部にわたって出席することは物理的に不可能であり，その全貌を刻明に報告することはできないが，筆者はたまたま本大会の組織委員の一人であって，本大会のプログラム作成に参画し多少地の理を得ているので，その観点から，ハイライトをかいつまんで報告すれば次のとおりである．

開会式直後に，今回の大会を最後に国際人口学会長をやめる Ansley J. Coale 教授の，「世界人口動向の再評価」と題した講演が行なわれた．これは，Coale 教授が過去年40年間形式人口学に果たした功績，とくに不完全なデータを使っていかに正しい人口指標（出生率・死亡率）の計量を行なったかの研究の総決算を示されたものであ